

## 院内学校で勉強し、漢字検定準 2 級に合格する

### A. B 氏(10 代男性、学生)

僕は、勉強がつまらなく、小学 5 年生頃から不登校気味になり、中学 2 年生からは完全不登校になりました。また、昼夜逆転し、イライラすると物に当たっていました。

そのため、母親が心配し、札幌太田病院に入院することになりました。入院中は、プログラムに出るように促されましたが、出たくない気持ちが強く、あまり参加していませんでした。しかし、中学では卓球部だったため、思春期運動プログラムでは卓球を楽しみにし、卓球のうまい他の入院者と対戦し、ストレス発散していました。

入院直後は、入院生活に慣れず、職員や入院者になかなか心を開けずにいましたが、同年代の入院者との関わりの中で、少しずつ話せるようになっていきました。

また、脱依存の会に参加し、自分の不登校の体験を話しているうちに、人前で話すことに慣れ、積極的にプログラムに参加できるようになっていきました。また、他の人たちの話を聴き、みんな大変な思いをしてここに来ていることがわかり、自分だけが大変なわけではないとわかり、学校に行けるようになりました。

学校へは病院から登校することになりましたが、はじめのうちはなかなか登校できず、そのため、適応指導教室に通っていました。しかし、卓球部に参加したい気持ちがあり、そのためには授業にもきちんと参加する必要があったため、病院職員に送迎してもらい、少しずつ登校できるようになっていきました。退院してからも登校する気持ちになっていき、時々休みながらも登校を続けました。

入院中に生活リズムが整ったため、退院してからも昼夜逆転することなく、登校できています。

中学 1 年生の時に漢字検定 3 級を取っていたため、入院中の院内学校の時間には、集中して漢字検定準 2 級の勉強をしました。退院後も遠方から来て院内学校に参加したり、通院時にも、診察までの待ち時間に勉強をして、見事、漢字検定準 2 級に合格しました。また、院内学校では、数学も勉強し、個別に指導してもらえたので、理解が深まりました。

退院後は、気持ちも落ち着き、遅刻しながらも中学に登校し、楽しく登校できそうな高校を受験しました。

現在は、高校で漢字検定 2 級の勉強ができるので、がんばって毎日遅刻せずに登校しています。

将来は、バンタンゲームアカデミーに進学し、プログラミングなどを学びたいため、今後は学校にしっかり通い、パソコン関係の検定に挑戦したいです。